

# Feel the NCGM



国立研究開発法人  
国立国際医療研究センター  
広報企画室通信

2021.12.23  
Vol.45  
December



(後列左から) 針田哲企画戦略局長、狩野繁之部長・学会事務局長、北潔長崎大  
TMGH研究科長 (前列左から) 國土典宏理事長、武見敬三参議院議員

## 12月11日、第6回国際臨床医学会学術集会「テーマ:ポストコロナへの7つの約束」が開催されました

本学会は「国際臨床医学をより学術的な面から追求していくこと、その活動を通じて国民にとって有益な医療の発展を目指すこと及びその成果を広く社会への普及に努め、その医療を担う人材を育成し、国内外の本分野の医療・研究の指導的な役割を果たすこと」を目的に活動を続けています。

今回は、國土典宏理事長が会長を務め、武見敬三参議院議員が特別講演を行いました。

→ 詳細は次ページへ

第6回国際臨床医学会学術集会は、国際臨床医学会の年次集会として毎年開催されています。昨年度の学術集会で広く社会にアピールされた「グローバルヘルス大阪宣言2020」の7つの重点項目「国際協力の推進」「だれひとり取り残されない対策への配慮」「感染症対策」「非感染症疾患対策」「国境を越える人々への医療」「PHCとUHCへの取り組み」「グローバルヘルス教育」が、この1年間のコロナ禍にあっても発展的に同学会に生かされ、約束したコミットメントが果たされていることを確認しました。



会長講演を行う国土理事長

国土理事長の講演では、1年間の国際臨床医学領域のダイナミックな変化、特に新型コロナウイルス感染症の第3波から第5波を通してNCGMが果たした総合病院の機能と役割が紹介されました。

特別講演では武見敬三参議院議員から、「COVID-19対策への国内の体制づくりとGlobal Healthの戦略」とのテーマで、様々な政策の紹介や、国際臨床医学会・NCGMが果たすべき役割などが力強く話されました。

本学術集会はハイブリッドで開催され、延べ61演題、400人余りの参加登録があり、100名を超える現地参加がありました。



講演する杉浦康夫国際診療部長



第2会場風景（研究所大会議室）



講演する大曲貴夫国際感染症センター長と座長の溝上雅史プロジェクト長（手前）